

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 207

2009年

3～4月号

## 行 事 案 内

### 3月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 3月8日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 まだ残っている冬鳥の最後の観察チャンスです。このごろ増えてきたカムリカイツブリの夏羽に会えたら、うれしいですね  
解 散 正午  
担 当 松田、桑森、小林(寿)、野口(紀)、北原、佐々木

集 合 我孫子駅北口 午前7時30分  
案 内 数多くの冬鳥や水鳥が期待できます  
持 ち 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中のコンビニで購入可)  
交 通 自家用車分乗。車を提供可能な方は申込みの際、その旨ご連絡下さい。分乗者は運転者に一人1,500円をお渡し下さい  
申 込 野口隆也まで  
Tel : 04 - 7163 - 7898  
担 当 松田幸保、野口隆也

### 4月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 4月12日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 カモ達は手賀沼にどれくらい残っているのでしょうか。ツバメやコチドリなど早い旅鳥や夏鳥は姿を見せてくれるのでしょうか。注意深く観察しましょう  
解 散 正午  
担 当 佐々木、小林(寿)、野口(紀)、北原、桑森、松田

### 葛西臨海公園探鳥会

期 日 4月18日(土) 雨天中止  
集 合 我孫子駅改札口 午前7時55分  
案 内 水辺の鳥(シギ・チドリ等)、野山の鳥の両方が期待できます  
持 ち 物 観察用具、雨具、昼食(我孫子駅周辺が葛西臨海公園駅のコンビニで購入可)  
交 通 我孫子駅午前8時07分発千代田線で新松戸乗換え、武蔵野線(東京行)で葛西臨海公園駅へ  
申 込 野口隆也まで  
Tel : 04 - 7163 - 7898  
担 当 松田幸保、野口隆也

### 北本自然公園探鳥会

期 日 3月22日(日) 雨天中止

## 筑波山探鳥会

期 日 5月6日(水) 雨天中止  
集 合 我孫子駅北口 午前7時  
案 内 恒例のゴールデンウィーク探鳥会  
です。本隊(健脚向き)は筑波山の  
裏側から探鳥しながら御幸ヶ原に登  
ります。別隊(一般向き)は筑波山  
神社で探鳥後、ケーブルカーを利用  
して御幸ヶ原で本隊と合流します。  
その後、男体山を周遊する自然研究  
路を一周し、裏側から下山します。  
ソウシチョウ、オオルリ、ツツドリ  
の美声と姿に出会えるでしょう。  
持ち物 観察用具、雨具、昼食(途中購入可)  
交 通 自家用車分乗です。便乗者は一人  
1,500円を運転者にお渡しください。  
なお、申込みの際、自家用車を  
提供可能な方はその旨ご連絡くだ  
さい。  
申 込 染谷迪夫まで(本隊、別隊の希望を  
お知らせください。)  
Tel/Fax : 04 - 7182 - 3972  
担 当 野口(隆) 染谷  
(注)ケーブルカー利用者は別途片道大人  
570円、子供290円 必要です。

## Enjoy手賀沼!第20回バードウィーク 手賀沼探鳥会

5月10日~16日はバードウィークです。恒  
例の手賀沼探鳥会を実施します。(財)山階  
鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館と当会が共  
催するイベントで、同日、手賀沼親水広場で  
開催される「Enjoy手賀沼!」(Enjoy手賀  
沼実行委員会主催)に併せた行事です。探鳥  
会には約80名の市民の参加が見込まれ、当  
会は探鳥会の実施面を担当するので、人手が  
必要になります。多数会員のお手伝いをお願  
いします。

期 日 5月10日(日) 雨天中止  
集 合 手賀沼親水広場 午前8時30分  
案 内 6班編成で、順次出発、ふれあい道

路を東進し、高野山新田の信号の先  
で右折、遊歩道へ入り、滝下広場か  
ら遊歩道を戻るコースとします。班  
毎に鳥合わせして解散です。原則  
12時終了の予定です。5月の定例  
探鳥会はこのバードウィーク手賀  
沼探鳥会に替えます。  
雨天の場合は、我孫子市鳥の博物館  
見学会(入場無料)を行います。館  
内の案内、説明等を会員が手伝いま  
す。確認は7時30分以降「鳥博」  
(Tel: 04-7185-2212)まで。

## 平成21年度定期総会開催案内

日時 4月12日(日) 午後1時30分~  
場所 水の館3F研修室  
議題 平成20年度活動報告、同決算報告  
平成21年度事業計画案、同予算案  
役員改選  
20年度の成果と反省を総括し、21年度の活  
動方針等を決める総会です。出来るだけ多  
数の会員の出席をお願いし、活発な総会に  
なるよう期待いたします。

## 3月幹事会開催案内

日時 3月8日(日) 午後1時30分~  
場所 水の館3F研修室  
議題 総会提出資料の検討  
・20年度活動報告及び決算案  
・21年度事業計画案及び予算案  
会報208号掲載記事について  
役員改選について  
その他(その他議題があれば事務局へ)

## 行 事 報 告

### 12 月手賀沼探鳥会とカウント

12月14日(日)は夜半からの雨が降り続き中止になりました。

集まった人数はカウント・ピオトープを含めて10人でした。(担当)小林(寿)

<カウント班> 木村稔、北原建郎、染谷迪夫

調査日時 2008.12.15 9:00~11:50

晴、気温8度

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	8	4	12
ハジロカイツブリ	0	7	7
カンムリカイツブリ	40	17	57
カウ	41	58	99
ゴイサギ	1	0	1
ダイサギ	4	1	5
コサギ	15	13	28
アオサギ	4	8	12
コブハクチョウ	5	6	11
マガモ	2	2	4
カガモ	67	4	71
コガモ	197	64	261
オカヨシガモ	25	0	25
ヒドリガモ	4	22	26
オナガガモ	66	4	70
キンクロハジロ	0	1	1
ホシロガモ	2	0	2
ミコアイサ	1	4	5
バン	1	0	1
オオバン	20	14	34
タゲリ	0	24	24
セグロカモメ	0	1	1
合計	503	254	757

<ピオトープ班>

調査日時 川田光男、谷山晴男、鈴木静治

2008.12.14 9:30~11:00

全般:沼、池の水位高い。多数のカモが沼に、ヒヨドリ、ツグミ等が桜並木にみられた。

水田:二番穂の水田の一部で田起こしあり。

ピオトープ:葦・葛等枯れ倒れた所あり。沈水植物生育実験で掘返し調査の様様。

通行人:小雨降る中、犬の散歩一組、ランニング、散歩各々一人と少なかった。

### 1 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2009.1.11 9:00~12:00

快晴 風弱 気温6

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ミコアイサ、ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサ、バン、オオバン、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、エナガ、メジロ、ホオジロ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス  
計42種 番外 ホオジロカンムリヅル、カワラバト

<探鳥班> 小口勝久、間野吉幸、村瀬和則、諏訪哲夫、佐々木隆、榎本右、吉川洋、山内雅量、池田日出男、田中悟、浅井久、栗田励、西昭子、常盤孝義、松本勝英、田丸喜昭、松田幸保、田中恒雄、宮下三禮、吉田隆行、六角昭男、西巻実、武藤康之、大久保陸夫、片桐邦夫、古出洋子、石渡成紀、野口紀子、類地佑子、渡辺政一、岩田孝之、植田啓介、渡辺成、高橋長久(担当)北原建郎

参加者35名

<カウント班> 木村稔、田中功、桑森亮、染谷迪夫

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	16	2	18
ハジロカイツブリ	6	2	8
ミカイツブリ	6	0	6
カムリカイツブリ	18	7	25
カワ	7	48	55
ダ イキ	4	0	4
コサギ	8	5	13
コバクチョウ	11	11	22
コハクチョウ	0	2	2
オハクチョウ	0	3	3
マガモ	36	4	40
カルガモ	49	18	67
コガモ	0	38	38
オオシガモ	6	0	6
オナガガモ	0	2	2
ホシバシロ	0	7	7
ミアイ	5	1	6
バン	2	0	2
オオバン	21	12	33
クゲリ	0	1	1
ワカメ	52	0	52
合計	247	163	410

<ピオトープ班> 鈴木静治、谷山晴男、川田光男

全般：葦の上部に鳥が見えず、手賀沼側で水鳥、特に数種類のカイツブリが見えた。

水田：乾田。一部の乾田では耕起。

ピオトープ：観察ゾーンの池半分薄氷。

葦・蒲枯れ倒れる。道路脇、草刈り等で整備。

通行人：晴天のため多数のウォーキング、ランニング、サイクリング、犬の散歩の人達。

## 福島潟探鳥会

11月30日

### カモを狙ってハヤブサが急降下

西巻実

11月30日に行われた新潟市にある福島

潟の探鳥会に行ってきました。その印象が強いのので皆さんにお知らせします。

私は新潟県の出身ですが福島潟は行ったことがありません。昨年だったか福島潟を日帰りで行ったことがありますが、それにも参加しませんでした。理由は、今頃の新潟県の天候は北西の風が強く曇まじりの雨が連日つづき、とても鳥見の雰囲気ではないと思ったからです。このごろの異常気象は新潟県にも好天が続きますので、それをあてに申し込みました。

前日には予報を見る限り、北西の風が強く吹きます。近年いったことがない故郷の雨風も懐かしいものに思えました。

決行に決まりました。当日は昼前に現地に着きました。すこし雨が降っていますが北西の風が強いです。昼ごろには曇まじりの雨です。現地には「ビュー福島潟」というガラス張りの建物があり、それに行了きました。この建物から見る限り、ガラス越しに見る風景は少しぼけ、写真をとってもぼけます。少し歩きました。福島潟は複雑に入り組んでいます。見通しはよくないです。カモが多いです。マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモが大部分ですが少数はヒドリガモもいます。ガンはいません。カモは何万といます。多くのカモを狙ってハヤブサの類がいます。急降下を繰り返しますが狩は成功しないようです。そのたびに多くのカモは逃げ出します。一回ハヤブサの仲間が木に止まりましたが、白っぽくて私はハヤブサの若鳥とおもいましたが、チュウゲンボウの仲間かも知れませんが、チュウヒもいます。多いのはチュウヒです。カモは神経質になり、ほかのカモでも逃げ出します。カモとタカが多く、その攻防が見所です。前日は好天でカモを食べる、オジロワシが見れたそうです。

伊豆沼・蕪栗沼には何回と行きましたが、それとも違います。蕪栗沼にはオオヒシクイが多いです。マガンは朝日の出る前に一斉に飛び立ちます。福島潟のオオヒシクイはマガンとともに飛び立ち、周囲の田に群れごとに餌取りに行きます。オオヒシクイは「沼太郎」とよばれ終日沼にいます。ところが福島潟のオオヒシクイは「沼太郎」ではありません。午後から田んぼを歩きました。オオヒシクイの群れがいます。コハクチョウの群れもいま

す。オオヒシクイの群れの中にマガンも 2羽いました。午後 3 時を回るころ、悪天候に夕方と思ったのか、帰雁が始まりました。撮った写真の中にオオヒシクイの群れとマガンの群れと一緒に写っています。マガンのようにオオヒシクイも、ひらひらといわゆる落雁をするのかもしれませんが。福島潟の HP を見ると「落雁」の言葉があります。

悪天候に決行した幹事に感謝します。伊豆沼・蕪栗沼とはぜんぜん違った沼を見ることが出来ました。

## カモの大群の飛翔、オオヒシクイの雁行が

中野久夫

11月30日、福島潟日帰り探鳥会が行われた。参加者9名、上野発7時6分の上越新幹線に乗り、新潟駅で白新線に乗り換えて福島潟のある豊栄にゆき、10時過ぎに現地に着いた。

当日は冬場の日本海側の典型的気候で、風が強く雨模様で昼ごろには曇りも降り、鳥見には良い状態ではなかったが、迫力あるカモ大群の飛翔、素晴らしいオオヒシクイの雁行がみられるなどの成果があり、みなさん満足して帰ってきた。

福島潟の西側にあるガラス張りの建物「ビュー福島潟」でインストラクターの説明を受けた後、建物内から潟や周りの水路・田んぼの鳥を観察した。潟や水路には数多くのカモ、その上空を飛び交うタカ類、裏の田んぼで採餌するのはオオヒシクイやハクチョウの群れなどが見られたが、いずれも遠くしかもガラス越しで少しぼやけて見えて物足りない。そこで外に出て、小雨の中を歩いて潟横の観察所「雁晴れ舎」に行った。潟は複雑に入れ込み見通しは良くないが、万余のカモが見られた。マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモがほとんどでヒドリガモもいた。オオヒシクイやハクチョウは出払って湖面ではほとんど見られなかった。潟上ではオオタカやチュウヒやノスリなどのタカ類やハヤブサが数多く飛んでおり、ときどきカモ群を襲うためカモもかなり神経質になっていて他のカモの動きでもすぐ飛び立つため、あちこちで大群の一斉飛び立ちが頻繁に見られ見ごたえがあった。

午後は潟の南側に回り、鳥類観察ステーション付近から潟を見たあと、近くの田んぼを見て回った。ところどころでオオヒシクイやコハクチョウが数羽から数十羽の群れで採餌しているのが見られ、オオヒシクイの群れの中には2羽のマガンもいた。当日は悪天候で暗かったためか、午後3時過ぎには早くも帰雁が始まり、あちこちから数多くオオヒシクイの群れが飛来し、潟に向かって飛んでゆくのが見られた。幸い雨も上がり、素晴らしい帰雁の雁行をじっくり堪能でき大満足で帰路についた。

## 【幹事報告】

実施期日 11月30日(日) 日帰り

探鳥地 新潟市の「福島潟」(旧豊栄市)と周辺田畑

交通 上越新幹線(新潟)～白新線豊栄  
天気 我孫子は晴れ、現地は、どんより雪雲、北西の寒風、時折、曇混じりの降雪、あられ、一時薄日。

参加者 西巻実、中野久夫、宮下三禮、古賀嗣朗、古賀道子、鈴木静治、桑森亮(担当幹事)間野吉幸、田中功 参加者9名  
“日本最大のオオヒシクイの渡来地でガンカモの大群を楽しもう”というキャッチフレーズを掲げて参加募集をしたものの、冬場の天候、特に、日本海側の本物の寒さと鉛色の空、雪のイメージ、その上、日帰りのコストパフォーマンスを考慮すると、参加者数は、幹事2名を含めても、約4-5名程度か?と懼れていたが、開けてビックリ、なんと9名もの勇者(物好き)が参加。心配していたお天気も、雨・雪・みぞれ・あられの洗礼を受けはしたが、一時薄日がさすこともあり、鳥見の大きな支障とはならず、大体において、想定範囲内。9名の善男善女の純な想いと願いが天に通じたに違いない。肝心の鳥見で、特筆すべきは、観察センター「ビュー福島潟」から眺めたタゲリ約500羽の群飛、「雁晴れ舎」(ガンバレしゃ)から見る複雑な形状の福島潟の水面を埋めるカモの大群と獲物を狙い低く飛ぶチュウヒやノスリそしてハヤブサ類が随分多いこと(チュウヒが特に多かった)これら猛禽の襲撃に神経質になっているカモが、水鳥の羽音に驚き慄く源平

の富士川の合戦の平家軍さながらに、タカの鳥影や隣のカモ達の空騒ぎに過剰反応して、数百羽～千羽以上のカモの大群がダイナミックに大迫力で次々に一斉飛び立ちをするさまの印象的なシーンが幾度も続いたこと、刈り入れ後の田圃で二番穂や草の塊茎・塊根などを採餌するオオヒシクイやコハクチョウの群れを、警戒させず、恐れさせずに何処まで寄って観察できるか？ チョット実験（100m以上？） たそがれ時の如く薄暗い天候の午後3時すぎ、ただならぬ上空の霏雨気に空を仰ぐと、家路を急ぐオオヒシクイの群れが、文字通り“竿になり鉤になって”次々と頭の真上を通過していく。幾群れも幾群れも、少しずつ間を置いて。一大スペクタクルを観る感じ。N氏は腕の良い速射高射砲兵さながらにすかさず連射連写、お蔭で、オオヒシクイばかりと思っていた帰雁の列に、マガンが何羽か混じていたことが後刻判明。一点惜しむらくは、前日、近くで見られたカモを食べるオジロワシ、期待のハクガンは、残念空振り。冬場の斯くも印象深い鳥見であったためか、帰路の新幹線車内の反省会は大いに盛り上がった。

<認めた鳥> タゲリ、オオヒシクイ、マガン、コハクチョウ、トビ、チュウヒ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ミサゴ、カルガモ、コガモ、マガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、カワウ、カイツブリ、アオサギ、コサギ、ダイサギ、モズ、タヒバリ、アオジ、ツグミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス 計32種

---

## 酒 沼 探 鳥 会

12月30日

---

### コオリガモの初見

#### ハジロカイツブリの大群に驚嘆

鈴木静治

酒沼探鳥会は毎年12月30日恒例になっており、この探鳥会に参加しないと年を越せない感ありいつも、家族のみんな御免ね、と心で思いながらも大掃除を家族に任せて、参

加しました。酒沼・霞ヶ浦と言いますとまず思い浮かぶのは、スズガモの大群、ホオジロガモ、ヨシガモの群れ、ノスリ、ミサゴ、ハヤブサ等のワシ、タカ、土産の蜆、干し芋です。又、この時期に酒沼に行きたい動機には、2003年以来5年続けて参加していますが、この時期の酒沼探鳥会では何か珍しい鳥、天候の急変等々、何かしらハブニングがありこれを期待することが大きくこの魅力と言おうかスリルにはなかなか勝てないからです。

今年の探鳥会は暖かく快晴、まさに小春日和、今年、雨・雪のため中止された探鳥会・定例会が多かったことが、うそのような今年の最後を締めるに相応しい探鳥会日和でした。参加者の心掛けがよかったせいでしょうか？ 終わり良ければ全て良ですね。

午前8時に我孫子駅北口に17人集合、4台の車に分乗し、一路、酒沼に向かう。美野里PAで休憩、岩間IC近くで昼食を買い求め、酒沼最西部のポイントに到着し、既に到着していた首藤さんご夫妻と合流し、総勢19人になる。ここでは、カモ、カイツブリ、タカ、カワセミ等を観察し、次の観察場所、網掛公園、いこいの村酒沼に移動する。ここで、ハジロカイツブリの何百という群れが幾つも見られ、またカムリカイツブリの何十という群れが幾つも見られました。これらのカイツブリは水面に浮いているかと思うと、次にはいっせいに潜水し、なかなか見ごたえのある壮観な風景でした。多分小魚の群れをカイツブリの群れが追い込み漁でもしているのでしょう。

酒沼は酒沼川でつながり大洗で太平洋につながる汽水湖のため、蜆のほかに川魚ほかに海の魚も多いのでしょう。手賀沼では見られない光景でした。

ハジロカイツブリ、カムリカイツブリに見とれていると、田丸さんがオオバンを撮影中で、何を写しているのかなと見ると、なんと、オオバンが赤いザリガニを口に銜えたり、水中に落とし、また銜えたりを繰り返している。多分食べようとしているのだろうが、遊んでいるようにも見える。オオバンは水草、昆虫は食べることは知っていたが、ザリガニまでたべるとはビックリ。また、恒例のホオジロガモも見えた。

また、首藤さんが、キンクロハジロ、スズ

ガモ等の中にコオリガモが見られるという。慌てて見てもどこにいるのかわからない。桑森さんに位置を教えてもらいやっとスコープの視野に入った。頭の白さが印象的だ。私は初めて見るカモだ。プカプカ浮かんでいた。このカモは主に東北地方以北の海で見られるとのことで、ここで見られるのは、珍しく、ラッキーであった。別れ惜しいが、コオリガモに別れを告げる。

次の涸沼東南部のポイントでは、トビの他にカイツブリ類を見る。ここでも、ホオジロガモが数羽みられた。この鳥は、湾、河、湖沼で、潜水し、エビ、カニ、魚、水生昆虫等をたべるので、このような涸沼には住みやすいのだろう。近くの堤防で投げ釣りをしている数人がいたので何が釣れるのか聞くとマルタだという。生簾を見せてもらおうとボラのような 30-40cm の魚がはいっていた。家に帰ってから調べてみると、大洗に多く、大河の河口に生息する魚で、正式にはマルタウグイらしい。

涸沼を後にし、本日の目玉、土産の蜆を買い求め、高浜駅近くの霞ヶ浦岸でナポレオンハットのヨシガモを見る。ヨシガモを見ると、霞ヶ浦にきたな、という気持ちになるから不思議だ。

マガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ等いろいろなカモの中にやっと、ミコアイサの雄雌を見つける。涸沼では見なかっただけに、やっとお会いできましたね、とほっとした。

各種のカモ、タカ、タゲリ等探鳥していましたが、快晴といえども冬、午後4時ともなると、さすがに風が冷たくなり、霞ヶ浦を後に夕日をみながら、帰途に就く。途中谷田部東PAで鳥合わせ・土産の干し芋を買い求め、解散となり各車ごとに思い思いのルートで帰る。

今回はコオリガモ、前回2007年キクイタダキの群れ、カワアイサ、2004年ピンズイ、カシラダカ、2003年ベニマシコ、トモエガモが見られ、来年2009年は何が出るか乞う期待、楽しみです。

最後に、楽しい探鳥会を企画いただきました北原さん、田丸さん、安全運転いただきました、田丸さん、間野さん、松本さん、桑森さん、首藤さん、また楽しく探鳥させていただきました参加者の皆さんありがとうございました

いました。

#### 【幹事報告】

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、オオハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、コオリガモ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チュウヒ、キジ、オオバン、タゲリ、イソシギ、タシギ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソカラス、ハシブトカラス、計59種 番外コクチョウ

<参加者>田丸喜昭、田丸メリールイス、古賀嗣朗、松本勝英、松本葉子、大久保陸夫、間野吉幸、桑森亮、松田幸保、中野久夫、井上正、石渡成紀、田中功、鈴木静治、西巻実、金成典知、首藤佑吉、首藤美恵子  
(担当幹事)北原建郎 参加者19名

---

## 波 崎・北 浦 探 鳥 会

1月3日

---

### シノリガモに大興奮

六角昭男

新年初めての探鳥会は恒例の小見川、神栖、波崎方面へ。寒さにめげず、また、お正月も厭わず、我孫子駅前に集合したのは間野会長はじめ熱心な11名の皆さん。お正月ということもあり、参加者はちょっとさびしい人数でしたが、快晴微風、絶好の探鳥日和、3台の車に分乗して、定刻少し前の7時50分に出発。利根川沿いを一路小見川川原に向けて車を走らせました。お正月真最中ということもあり、道路はスイスイ、あっという間に小見川大橋のたもとに到着しました。

ところが、葭原を見渡しても、空を見上げても、期待していたワシタカ類はおろか、鳥

の姿はどこにも見あたらず、ダイサギが1羽見えるだけ。鳥たちはみんなお正月でどこかへ出かけてしまっているようでした。

今年の小見川は不作、と早々にあきらめて、次なる目的地、神栖市役所裏の神之池に移動。ここはカモ類の宝庫、期待通り、遠くからもカモの姿がいっぱい見えます。よく見ると、ミコアイサが数十羽群れをなしています。ミコはカモの群れの中に1、2羽いるのが普通なのに、こんなにいるのは珍しいとのこと。ただ、あんまりいると有難みも薄れるねと贅沢な愚痴をこぼす有様でした。その他、ハシビロガモ、マガモ、カルガモなど定番のカモたちが目を楽しませてくれました。この頃から少し風も強くなりだし、特に池の上を渡ってくる風はことのほか冷たく感じました。

次に向かったのは、いよいよ今日の本命、波崎漁港です。河口から港にかけていろいろ鳥たちがいそうですが、まずは腹ごしらえと、波崎かもめ公園の日当たりのいい階段で早めの昼食をとることに。皆さん思い思いのお弁当をいただき、いざ出陣。

公園の向かいの磯に小さな鳥が数羽見えたので、何だろうとスコープで確認したら、ミユビシギがツツツと可愛く歩いているのが見えます。防波堤の上にはカモメ類が高波と戯れるように飛び回り、手前ではハジロカイツブリが潜っては浮き、浮いては潜るを繰り返しているのも見えました。

公園から港の少し先の方に移動して、防波堤の周囲にいる鳥たちを観察することに。ここは間野会長が初めてミヤコドリを観察して大感動した思い出の地とか。今日もきつといるに違いない、とみんなで探し回ったがなかなか見つからず、あきらめかけた時に、「いた！」と鈴木さんが執念の発見。黒い背羽にくちばしと足が赤いのが特徴のミヤコドリに私も大感激しました。

その後、港の対岸、新漁港の方にたくさんのカモ類が遠望されたので、海水浴場の横の、波静かな防波堤の内側に移動したところ、カモの群れ（およそ500羽）がお休み中。ハシビロガモ、スズガモ、オナガガモ、コガモなどいろいろなカモが確認されました。

いよいよ帰りの時間となり、最後にかもめ公園でもう一度トイレをすませることに。「これであと、シノリガモが見られたら大満

足なんだがね」と誰かが言った途端、何と公園の目の前で、シノリガモを発見との声。海の道化師と言われるシノリガモは、オスは派手な青褐色、白色、赤栗色、黒などの美しい模様を持っているそうですが、目の前のシノリガモは全体に地味な灰黒褐色で眼や耳のところに白斑があるのでメスと認定。シノリガモはカモの中でも潜水ガモであることも特徴とのことで、確かに時々水の中に潜ってえさをとっているようでした。私はもちろん見たことがなかったので大興奮。なかなか見られないカモにお目にかかり、もう思い残すことがなく波崎を後にすることができました。

帰りは、途中の栄町運動公園で鳥合わせを行い、3時過ぎに解散となりました。道路は、行きとは違って家路を急ぐ車が集中し、一部渋滞したものの、シルエットの富士山を仰ぎ見ながら、無事我孫子に到着しました。お正月早々いろいろな鳥たちと会うことができ、楽しく幸せな1日でした。

当初予定していた北浦は帰りが遅くなり渋滞にも巻き込まれかねない、ということから、今回はパスすることになりました。また別の機会に訪ねて、ハクチョウたちに出会いたいと思っています。

#### 【幹事報告】

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ヒメウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、シノリガモ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、チョウゲンボウ、オオバン、タゲリ、ミユビシギ、ミヤコドリ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、キジバト、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ツグミ、イソヒヨドリ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシブトカラス、ハシボソカラス計45種 番外ガチョウ、シナガチョウ、カワラバト

<参加者>田丸喜昭、田丸メリールイス、宮下三禮、古賀嗣郎、間野吉幸、田中功、中野久夫、西巻実、鈴木静治、(担当幹事)桑森亮、六角昭男 参加者11名



---

## 銚子カモメ探鳥会

1月18日

---

### カモメは難しい

#### カモメ識別ブックを片手に

山本貞江

7時30分我孫子駅を出発、灰色でどんよりした曇り空を見上げながら、それぞれに、“うん、雨は降らないよな”“大丈夫、大丈夫、”“晴れてくるよ”など、それをからかうようにパラ、パラ、けれども、まもなくお日様が出たり、曇ったりと風のないまああめの天気になる。参加者は13人。8時15分 安食のコンビニでお弁当を調える。

9時20分 桜井町公園に着きトイレ休憩を取る。カモメ、ツグミ、そして“このヒヨドリは大きいね”と田中さん。

10時銚子港に到着。防波堤には適量？の鳥たちがずらーりと並んで我々を迎えてくれた。約一時間カモメ識別ブックを片手にカモメにトライ・・・カモメは難しいカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、チョウゲンボウ、トビもでてくれた。

私ごとを申し上げれば、広い、広い、海と空をバックにゆうゆうと飛びまわる鳥を見ていると気持ちの良い大気が体中にみなぎってくるように感じる。これぞバードウォッチングの楽しみです。そしてビッグプレゼント、、、諏訪さんがカナダカモメ、カスピカモメを見て、聞いて、写されました。カスピカモメは図鑑にも無い由、これは後日鑑定の結果を待つことに。

11時10分 千人塚に移動。ヒメウ、ウミウ、カワウ、の識別を確認。スズガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、そしてミヤコドリ、シノリガモ、を見る。銚子漁港をまわり波崎海水浴場へ。屋根の下で昼食。

海にでる、ここはすこし風があり、寒かった。水しぶきを浴びそうなほど冬の海のなかにいる感じ。スズガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、ハマシギ、ミユビシギの30羽程のグループ。そのスピードある、愛らしい、ダンスにしばし見とれる。

一時間程の探鳥で外川に向う。ここにはカモメは居なかったけれど、イソヒヨドリのオスに会える。漁港に戻り、買い物をして、帰路

につく。楽しい一日でした。幹事さん有難うございました。

#### 【幹事報告】

<認めた鳥>カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ヒメウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、スズガモ、シノリガモ、トビ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オオバン、ミヤコドリ、コチドリ、ハマシギ、ミユビシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、カモメ、ウミネコ、カナダカモメ、カスピカモメ、キジバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、ツグミ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス計44種

<参加者>北原建郎、古賀嗣郎、吉田隆行、間野吉幸、宮下三禮、山本貞江、松本勝英、松本葉子、田中功、松田幸保、西巻実(担当幹事)染谷迪夫、諏訪哲夫 参加者13名

---

## 平成20年度 芋煮会

12月21日

---

今年で第26回目の芋煮会でした。晴れて風もなくおだやかな芋煮会でした。料理は芋煮、やきとり、鉄板焼き(やきそば)、やきいもなどが用意され、また、参加者手製料理等もありました。飲み物は会員持込の、日本酒、ワイン、焼酎、ジュース、お茶等たくさんでした。終了後は残りのお酒などのオークションが行われ売り上げは芋煮会の経費に充当しました。

日時 12月21日(日)10:00~14:30

場所 五本松公園キャンプ場

参加者 鈴木静治、宮下三禮、中野久夫、諏訪哲夫、大久保隆夫、松田幸保、赤尾完、片桐邦夫、大野真澄、西巻実、首藤佑吉、木村稔、木村正子、杉森文夫、小林寿美子、野口紀子、野口紀恵、石川綾夏、橋本清、井上正、佐々木隆、山田哲生、類地佑子、野口隆也、北原建郎、中尾正直、小島経一、六角昭男、柴本三弘、柴本法子、長谷川、島崎純造、間野吉幸、松本勝英、松本葉子、小玉文夫、染谷迪夫、桑森亮、田中功、吉田隆行 40名

## 鳥 だ よ り

- 11.23 [光ヶ丘広池学園] ヤマガラ(1)  
飯泉仁・久美子
- 11.23 [江蔵地] ハブサ(1) 採餌後飛び立ち高圧線塔で餌を食べる 鈴木静治
- 11.24 [片山手賀の丘公園] フクロウ(1)  
11:31、公園北部から鳴き声  
飯泉仁・久美子
- 11.24 [片山手賀の丘公園] ヤマガラ(2)  
11:05～12:20、鳴きながら移動  
飯泉仁・久美子
- 11.24 [片山手賀の丘公園] ムシクワ(7) 12:20、  
鳴きながら飛来、移動 飯泉仁・久美子
- 11.30 [酒井根 6 丁目下田の森] アトリ(1)  
9:07、雄個体が鳴きながら葦原の中に入っ  
ていった 飯泉仁
- 12.15 [手賀沼] ホシヅメ(2) 上沼  
染谷迪夫・木村稔・北原建郎
- 12.15 [手賀沼] ミコ(1) 上沼  
染谷迪夫・木村稔・北原建郎
- 12.15 [我孫子新田] イソギ(1) 手賀沼公  
園地先 染谷迪夫・木村稔・北原建郎
- 12.16 [片山手賀の丘公園] アトリ(3) 枝か  
ら枝へ移動採餌 田中功
- 12.17 [東我孫子] トラツグミ(1) 死体  
首藤佑吉
- 12.18 [浅間前] フウゲンボウ(1) 田の上を  
滑空する 鈴木静治
- 12.18 [下沼田] ヒ(1) 上空を旋回する  
鈴木静治
- 12.20 [光ヶ丘広池学園] アトリ(8) 8:50、櫛  
の花芽を食べに集まっていた 飯泉仁
- 12.21 [下沼田] ノリ(1) 田の杭に留まる  
鈴木静治
- 12.27 [柏の葉公園] ヨシガモ(1) ポート池  
の水面を泳いでいた 飯泉仁・久美子
- 12.27 [柏の葉公園] アトリ(3) 日本庭園、桜  
の広場に鳴きながら飛来  
飯泉仁・久美子
- 01.01 [千間橋] フウ(1) 田上を低空で滑  
空 鈴木静治
- 01.02 [江蔵地] アトリ(3) 木の梢に留まる  
鈴木静治
- 01.04 [片山手賀の丘公園] キクイタタキ  
(5)11:05～12:20、晴れ 飯泉仁・久美子
- 01.04 [片山手賀の丘公園] クジ(1)11:05  
～12:20、晴れ 飯泉仁・久美子
- 01.08 [江蔵地] ヘビシ(5) 河原の木の小  
枝に留まる 鈴木静治
- 01.08 [江蔵地] ノリ(2) 河原、河上空を飛  
ぶ 鈴木静治
- 01.08 [江蔵地] イソギ(1) 干潟で餌採り  
鈴木静治
- 01.08 [新々田] ヒ(2) 上空を輪を描き  
飛び、カスガが並行して飛ぶ 鈴木静治
- 01.10 [江蔵地] フウゲンボウ(1) 上空を通  
過 鈴木静治
- 01.11 [岡発戸新田] オハクシ(2) コバクシ  
ウに威嚇される  
川田光男・谷山晴男・鈴木静治
- 01.11 [岡発戸新田] ノリ(1) 上空を通過  
飛ぶ 川田光男・谷山晴男・鈴木静治
- 01.11 [岡発戸谷津田] ウ(1) 声  
首藤美恵子
- 01.11 [岡発戸谷津田] アトリ(15) 地面で採  
餌 首藤美恵子
- 01.11 [岡発戸谷津田] ミヤマホシ(1) 雄、  
地面で採餌 首藤美恵子
- 01.11 [手賀沼] フウゲンボウ(1) 上沼  
染谷迪夫・木村稔・桑森亮・田中功
- 01.12 [高野山新田] フウゲンボウ(1) 上空  
を通過 鈴木静治・石渡成紀
- 01.15 [布佐] ヒ(1) 屋根の真上を飛ぶ  
鈴木静治
- 01.17 [手賀] オカ(1) 9:41、谷地上空を  
飛翔 飯泉仁・久美子
- 01.17 [布瀬] ヒ(2) 9:46、水田地帯上空  
を旋回 飯泉仁・久美子
- 01.17 [発作] ヒ(3) 9:50、水田上空を旋  
回 飯泉仁・久美子

## 今回寄せられた鳥の全種名

アオサギ、アオジ、アカハラ、アトリ、イソシギ、ウグイス、ウソ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオハクチョウ、オオバン、オカヨシガモ、オシドリ、オナガ、オナガガモ、カイツブリ、カシラダカ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キクイタダキ、キジバト、キンクロハジロ、クロジ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コジュケイ、コハクチョウ、コブハクチョウ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズガモ、スズメ、セグロカモメ、セッカ、ダイサギ、タゲリ、タヒバリ、チョウゲンボウ、チュウヒ、ツグミ、トビ、トラツグミ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシボソガラス、ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、ハヤブサ、バン、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、ピンズイ、フクロウ、ベニマシコ、ホオジロガモ、ホシハジロ、マガモ、マヒワ、ミコアイサ、ミサゴ、ミ

ミカイツブリ、ミヤマホオジロ、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシガモ、ルリビタキ 計 79 種  
番外種 アイガモ、アヒル、カワラバト、シナガチョウ、バリケン

## 今回の投稿者の総投稿件数

飯泉仁・久美子	182
飯泉仁	325
大久保陸夫・鈴木静治	1
川田光男・谷山晴男・鈴木静治	4
首藤美恵子	6
首藤佑吉	5
鈴木静治	41
染谷迪夫・木村稔・北原建郎	4
染谷迪夫・木村稔・桑森亮・田中功	42
総計	660

## 会 員 便 り (ab-birdnet、ab-news より)

### 【北新田】

- ・オオタカは5羽のハシボソガラスにからまれながら帆翔していました。
- ・ノスリは田んぼ上を物色飛翔していました。
- ・タゲリは今日も青山水門付近のハウレンソウ畑にうずくまって休んでいました。  
(中野久夫 12/16)
- ・オオタカは越流堤近くの柳の木にとまっていました。
- ・イカルチドリは青山水門近くの2号排水路の干潟にいました。1月3日からみられるようになりました。  
(中野久夫 01/15)

### 【東我孫子のトラツグミ】

12月17日、近隣センター「こもれび」のロビーのガラス壁にトラツグミが激突死したのが見つかりました。これで2度目になります。住宅が多い東我孫子にトラツグミがいるとは感激ものですが、この貴重な鳥を2度も激突死させたことに責任を感じています。日本野鳥の会推奨のタカシルエットを貼ってありますが、トラツグミは比較的低空を飛ぶのでタカシルエットが目に入らないのかも知れません。建物の外から双眼鏡でガラス壁を覗くとガラスは見え、写り込んだ外の木々がズーっと奥まで続いているように見えます。鳥の目にはそのように見えるのでしょうか。遺体は鳥の博物館に運び、死して尚役立つようお願いしました。  
(首藤佑吉 12/19)

### 【高崎自然の森】

昨 23 日、つくば市高崎自然の森(旧荳崎町 - 牛久駅を過ぎ田宮町タグウチョウ信号左折し更に左側の道路に入り、荳崎庁舎先の信号を右折。消防署先の田舎道へ斜め左折)へ出かけました。公園に差し掛かる場所で♂のジョウビタキの挨拶を受けました。この日、公園で数が多かったのがシメでした。シロハラ、ヤマガラ、カケス、モズ、メジロなども雨上がりのせいか、活発でした。ミヤマホオジロが 3 羽出ているとのことで、私たちは出会いがありませんでしたが、「写真屋」さんが、何人か、待ち構えていました。この公園は、つくば市が管理するようになってから、下笹の刈り取りも進んだり、整備がよくなってきています。公園を出て、南側の田圃の反対側の農業用水路脇の藪では、アトリ数羽に出会いました。この日は、トラツグミとアカハラには会いませんでした。(田丸喜昭 12/24)

### 【手賀沼】

皆さん、明けましておめでとうございます

年末年始の鳥便りです。元旦に手賀沼の初日の出の後、探鳥初めの手賀沼でオオハクチョウ 3 羽に出会いました。年末の涸沼ではコオリガモに出会い、今日は本埜村のアメリカコハクチョウを見てきました。今年も皆さんとともに鳥見を楽しみたいと思います。よろしくお願いします。(桑森亮 01/04)

### 【石神井公園オオハクチョウ】

東京の石神井公園にオオハクチョウ 4 羽が昨日飛来したそうです。「都内にオオハクチョウ飛来 珍しい」と上野動物園東京都から発表があったそうで、今日の日中、鳥研にもマスコミ 2 社から問い合わせがありました。もうすでに夕方のテレビでも流れたようです。2005-6 年の冬は、日本海側の雪のために、太平洋側のいろいろの場所にハクチョウ類が南下し、都内でも善福寺公園にコハクチョウが飛来しましたが、今年はどうなのでしょう。北日本の大渡来地では、鳥インフルエンザがらみで餌付けを自粛している場所が相当多いようです。寒さが厳しくなるにつれて食いつぶれのハクチョウがいろいろの場所に出没するということがあるのでしょうか。善福寺公園のときには時ならぬハクチョウフィーバーになったそうです。当時過剰な餌付けもあったのでしょうか、日本野鳥の会東京支部のリーダーの方から、必要以上の餌付けをしないように注意喚起したいということでした。(平岡考 01/09)

### 【ルリビタキ】

鳥研の庭でおととい(01/13)、ルリビタキの美しい青い雄を観察しました。青い雄は久しぶりに見たような気がします。(平岡考 01/15)

### 【奇妙なコガモ】

首藤佑吉

1/17 手賀沼の滝下広場付近でコガモの奇妙な行為を見ました。9 羽のうち 1 羽のメスが水面を移動しながら鼻腔からしきりに水を噴き上げています。嘴の先端が少し水に浸かっている状態です。噴水の高さは約 10cm 位。20 分位観察しましたがその間、噴水は間断なく続きました。たまに噴水を止め首を伸ばして何かを飲み込むようなしぐさを見ましたが飲んでいのかどうかは定かではありません。他のコガモたちは一緒に泳いでいますが真似をするものは 1 羽もありませんでした。このメスは何をしているのでしょうか。(01/17)

時田さんからのご返事 1 月 20 日

お知らせいただいたコガモの行動ですが、見たことありません。通常、餌捕りの時、水と一緒に吸い込(ポンピングして)んで嘴の基部の両サイドから水を出しているわけですが、もしかすると(といい加減な話しになりますが)鼻腔から噴水のように噴き出す現象については、嘴内部(口蓋)の鼻腔孔からなる部分が何らかの原因で壊れた?のかもかもしれませんよね。真は分かりません。ごめんなさい

調査で一緒の樋口広芳さんにも聞きましたが「おもしろいけれど、奇妙な行動ですね。私は見たことがありません。理由もちょっと思いつきません。ビデオでもあれば、ぜひ見てみたいと思うのですが。」と言っておられました。そこで、今日の昼、斉藤学芸員が現場に行ってみましたが、何ら変わることはなかったとの報告です。

考えられる原因：釣り針などが引っかかって、取れる際に口蓋を傷つけたとか考えられます。

樋口広芳さん：東京大学大学院教授、元日本鳥学会会長で衛星を使った鳥の渡りに造詣が深い。鳥に関するいろいろな書籍を出版されています。

奇妙なコガモにつきご返事を頂き有難うございました。あの翌日、カメラを携え同じ場所に行きましたがくだんの噴水コガモは噴水をやめたのが移動したのか、見当たりませんでした。今後とも注意して観察してみます。(01/21)

その後、毎日くだんのコガモを探していますが、2度と見る事ができませんでした。(01/27)

### 【牛久沼】

18日には、牛久沼北東部分のほとりを歩いてきました。ここは、日本野鳥の会茨城支部が近年冬季定例探鳥会を開くところです。牛久沼大橋を過ぎ、ウナギ屋が並ぶところを過ぎた場所を左折し、三日月橋公民館の反対側の駐車場に車を止め、斜面林に沿い、谷津田を通り、斜面林を登り、小川芋銭記念館まで行き、同じ道を帰り、牛久沼湖畔の斜面林下の田圃と葦原を歩き、駐車場に帰るコースです。記念館近くでは、1月半ばというのに、一本の白梅が沢山開花し、一本の紅梅には数りんが開花していました。今冬はシロハラがあちこちで多いようです。昨年は、記念館の庭でルリビタキー羽が写真を沢山撮らせてくれましたし、一昨年は、谷津田で数十羽のアトリが乱舞してくれたり、昨日は、湖畔の田圃周辺で沢山のカシラダカとホオジロがいました。このコースでは、トラツグミに遭遇することもあります。今冬は、牛久沼でも、カモが極端に少ないようです。距離的には近い場所ですが、6号線と、小川芋銭記念館・河童の像までの道が細く分かりづらいところです。(田丸喜昭 01/19)

### 【頭の白いスズメ】

今日、手賀沼公園でスズメの群れの中に、一羽頭の白いスズメがいました。頭の部分が完全に白色以外は、他のスズメと同じです。興味のある方は、公園(広場先の東屋付近)へ。(間野吉幸 01/21)

### 【シメ】

鳥研では先週ルリビタキーの青いのと茶色いのと交替のように見えました。それから、1/24に谷津ミュージアムでシメ60羽(うちわに見てです。もっといたかもしれません)の群れを観察しました。

我孫子市役所手賀沼課の依頼で、谷津学校の皆さんに観察指導したのですが、雨が雪交じりになる天候での観察ながら、シメの大群に出会いびっくりしました。同行の染谷さんもびっくりされていました。シメは、枯れた草地で餌をとっているときもありましたが、驚いて飛び立って、谷津のまんなかにある木にもとまったり、群れで飛んだりもしました。60羽全部がひと群れで木にとまるというのはなかったですが、20~30羽ほどの群れが葉っぱのないひとつの木にとまることもあり、黒っぽい森をバックにして枝にとまったようすは、カメラがあれば撮影したいような美しい光景でした(ま、実際にカメラがあるとうまく撮れなくて悔しい思いををするでしょうが)。シメは渡来当初や渡去直前にはおそらく、もっと南で越冬する移動中の個体が入るのか、複数の群れで見ることがありますが、それでも何十という群れを私は関東では見たことがないです。まして1月ごろですとふつうは、枝先に1羽さびしげに止まっているという景色が普通のシメの景色ではないかと思えます。(平岡考 01/26)

## 我孫子野鳥を守る会の新メーリンググループ開設

これまでのメーリンググループ「ab-birdnet」、「ab-news」を統合し、新たなメーリンググループ「ab-yacho」へ3月15日をもって移行します。これまでお送りいただいた「鳥に関する話題」、「鳥だより」等はab-yachoをご利用ください。

### 1. 新メーリンググループの概要

グループ名：ab-yacho

アドレス：ab-yacho@yahoogroups.jp

メンバー：我孫子野鳥を守る会会員等

投稿内容：鳥だより

メンバー間の共通的な情報交換

当会の連絡事項

その他、当会活動に関連すること

添付ファイル：写真やデータなど1MB以内で添付できます

### 2. 新メーリンググループへの参加方法

これまで ab-birdnet 参加者の方は ab-yacho へ自動的に入会となります。

上記以外の方はお名前、E メールアドレス、住所を下記管理者までお知らせください。

管理者：佐々木隆 takasasaki@jcom.home.ne.jp

## 平成 21 年度上期行事予定（4月～9月）

実施日	行事内容	担当	備考
4/12(日)	am 手賀沼定例探鳥会 pm 定期総会	佐々木	
4/18(土)	葛西臨海公園探鳥会	野口(隆)、松田	
5/6(水・振替休)	筑波山探鳥会	染谷、野口(隆)	
5/10(日)	am Enjoy 手賀沼探鳥会 pm 幹事会	事務局(染谷)	定例探鳥会兼
5/23(土)～24(日)	軽井沢・菅平探鳥会	桑森、諏訪	
6/14(日)	手賀沼定例探鳥会	小林、野口(紀)	
6/28(日)	笹川・印旛沼探鳥会	北原、小玉	
7/4(土)～5(日)	手賀沼学会パネル出展	間野、宮下他	
7/12(日)	am 手賀沼定例探鳥会 pm 幹事会	北原	
7/25(土)	pm 映写会 夕方 納涼会	諏訪、吉田 北原、染谷	
8/2(日)	ホテルの夕べ	木村、染谷	
8/9(日)	手賀沼定例探鳥会	桑森	
8/30(日)	東京港野鳥公園探鳥会	鈴木、松本	
9/13(日)	am 手賀沼定例探鳥会 pm 幹事会	松田	
10/3(土)～4(日)	伊良子岬夕力の渡り探鳥会	木村、六角	

## 市民活動フェア in あびこ 2009

当会は「市民活動フェア in あびこ 2009」に参加します

開催日は2009年2月28日(土)・3月1日(日)、会場はアビスタ他。今回は手賀沼公園探鳥と「パネル展示」で参加する予定です。探鳥は公園定点で両日の9:00~12:00実施、「パネル展示」はアビスタ1階に2日間常設です。フェア開催日は市内の約100強の団体が展示や講演会や実演を繰り広げる予定です。会員の方達には是非お出掛けくださり、市民との交流他楽しんでいただきたいと思います。詳細は2月16日の我孫子市広報をご参照ください。

### 1月幹事会報告

日時 H21年1月11日(日) 13:30~16:00

場所 アビスタ1F 工芸工作室

議題

1. H21年上期 行事予定  
4月から9月までの定例探鳥会、日帰り、一泊探鳥会、その他行事予定を検討し決定した。行事予定はほーほーどり207号に記載。
2. 会報207号記載記事について  
会報207号に記載する記事を検討した。(行事予定、実施行事の感想文、報告など)
3. 第3四半期会計報告  
4月から12月までの会計状況の報告。(予算どおり推移している。)
4. 報告・検討事項  
市民活動フェアについて  
2月28日~3月1日にアビスタで開催される市民活動フェアに当会も参加。展示パネルと手賀沼公園の定点探鳥会等を企画し、会員の多数の参加を呼びかける。  
手賀沼と冬鳥、船とウォーキングによるモニタリングツアー対応について  
利根川舟運・地域づくり協議会(関連地方自治体)から依頼を受けた探鳥ガイドを1月12日に実施。参加者150人(我孫子市・取手市・利根町・河内町の4市町村)当会対応21人  
我孫子北地区社会福祉協議会からの講演依頼への対応  
上記協議会主催により3/28(土)に開催する「第12回健康と福祉の集い」での講演依頼があり、これを受けて、間野が「手賀沼の鳥」をテーマに講演。

### 木村稔さん 文化の日千葉県功労者表彰祝賀会

木村さんの文化の日千葉県功労者表彰祝賀会が1月25日、我孫子野鳥を守る会と我孫子市鳥の博物館友の会の会員、鳥博職員合わせて36名が参加し、けやきプラザ11階旬菜ムッターランドで開催されました。今回の祝賀会は二つの会の会員の内輪の会として開催されたため、参加の皆さんは、ほぼ全員知っているもの同士で和やかに行われました。立食形式のためあって、あちこちでグループ同士の会話がはずんで、参加の方々は本当に楽しそうでした。木村さん、おめでとうございます。これからも環境分野でご活躍されることをお祈りしています。

## 市民手賀沼探鳥会

日時：2009年1月25日（日）9:00～12:00

天候：快晴、風：弱

場所：手賀沼遊歩道

当探鳥会は我孫子市環境レンジャーと当会共催の探鳥会で一般市民を対象に、探鳥の楽しさや野鳥への理解を深めて戴くことを目的に毎年開催しています。一般市民の参加者31名を5班に分け、当会会員と環境レンジャーが夫々の班毎に丁寧な野鳥観察指導を行いました。

この日は好天に恵まれゆったりと熱心に野鳥を観察した大変楽しい探鳥会になりました。各班の認めた野鳥は32種から35種、合計39種の野鳥を観察することが出来ました。そのうち共通に観察できた野鳥は27種に上りました。

今年も人気のカワセミが何度も観察できた班がある一方、見る事が出来なかった班は、逆にアカハラを見る事が出来た等、班毎に特色が出ました。特にコゲラ、モズ、エナガ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、オオジュリンなどの小鳥が至近距離で何度も見られ、可憐な姿や精悍な姿に大変満足された様子でした。

参加者：一般市民31名、当会会員11名（内環境レンジャー5名）、環境レンジャー1名

## 第18回手賀沼ふれあい清掃

恒例の年末の手賀沼ふれあい清掃が12月7日9:00～11:45実施されました。手賀沼公園多目的広場に集合場所し、当会の清掃エリアはふれあいコース（手賀沼公園沿岸～親水広場）でした。当会の参加者は9名、全参加者は約450名でした。

## 手賀沼と冬鳥、舟とウォーキング観察

利根川流域の観光資源を見直すために、利根川舟運・まちづくり協議会の主催によりモニタリングツアーが1月12日実施されました。我孫子市、取手市、利根町、河内町の4市町の参加者150人。当会は野鳥観察を指導した。当会の参加協力者21名

行程 親水広場 徒歩 フィッシングセンター - (昼食) - 舟で手賀沼一周 鳥の博物館（試食会） - 水の館（自由見学） - 解散

## 新会員紹介

渡辺 戌、渡辺 信代（家族会員）（我孫子市）、高橋 長久（我孫子市）

## ほーほーどり No.207 （2009年3～4月号）

発行 2009年3月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel: 04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円（大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料）